

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195700125		
法人名	株式会社 大渡		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	岩見沢市7条西5丁目5-8		
自己評価作成日	令和2年1月4日	評価結果市町村受理日	令和2年7月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyCd=0195700125-00&ServiceCd=3208&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和2年6月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の喜怒哀楽を表現できる場所、そしてその気持ちに寄り添っていけるように個別ケアに努めている。
嬉しいことに、ご家族様や利用者様の知人など、来訪者も多く、地域や家族とのつながりも大切にできていように感じている事、そして何よりも、開設から在籍しているスタッフの入れ替わりがほとんどないことが、これらの良き方向へ繋がっていると考える事

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR岩見沢駅近くに立地する開設5年目の事業所です。地域行事への利用者の参加や事業所行事への地域住民の参加などを通し、地域との深い繋がりが構築されています。また市の認知症地域支援専門員等と協力して、毎月事業所リビングにおいてケアカフェを開催し、認知症への理解と啓発、地域の高齢者や家族の相談を受けるなど地域貢献を行っています。職員は利用者や家族や友人、知人との関係の継続を大切に、家族が意見や要望を言いやすい環境作りを努めています。職員が意見、要望を言いやすい環境をつくり、運営に反映しています。働きやすい環境であることが、開設時から長く働く職員が多いことに繋がっています。協力医、看護師と連携し、重度化や終末期のケアにも積極的に取り組んでいます。外出行事やレクリエーションも数多く企画し、重度の利用者の外出も積極的に取り組んでいます。職員は利用者一人ひとりの想い、家族や友人、地域との繋がりを大切に、住み慣れた生活を楽しくゆつくりと過ごせるよう、日々の業務に励んでいます。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい (参考項目:9、10、19)	○ 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○ 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○ 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はリビングの見やすい場所に掲示している。 会議や研修会などを通じて、理念の実践に向けて話し合いや確認を行っている。	開設時に定めた地域密着型サービスとしての意義を盛り込んだ介護理念があります。管理者は内部研修会や職員会議を通して職員へ理念の浸透を図っています。職員は日々のケアの中で、理念の意義を振り返り、その実現に向け実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事に毎年参加させて頂いている。 また行事にも参加して頂いており関係性が構築できている。	盆踊りや流しそうめんなどの地域行事に利用者が参加しています。小学生の施設見学受入れ、毎月事業所で開催しているケアカフェなど、事業所は積極的に地域住民との交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉に携わる方々と一緒に毎月1回ケアカフェを開催し、認知症の人の理解支援方法など理解を深めて頂けるよう取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	参加者からのアドバイスから取り組みの幅が広がったことや新たな気づきを得られサービスの向上につながっている。(行事関係など)	会議には、市、地域包括支援センター、家族、地域住民が参加しています。利用者の生活状況、行事、事故報告、災害対策などを議題とし、意見の交換を行っています。家族に案内状を送付し、会議への参加を促しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	面会やメール、電話などでさまざまな助言を頂くことが出来ており、報告・相談しやすい協力関係が築けているように感じている。	役所への提出書類の作成について、書き方や考え方を担当者に確認し事業所として適切な書類作成を行っています。新型コロナウイルス対策も市から指導を受け取り組んでいます。生活保護担当ワーカー来訪時には利用者の生活状況を伝えています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設外の研修会の参加・施設内での研修会や他事業所と連携して身体拘束適正委員会を設置して身体拘束をしないケアの実践に繋げている。	外部や内部の研修会で、身体拘束に当たる具体的な行為や、その弊害について学んでいます。身体拘束委員会を設置し、他の事業所と合同で定期的開催しています。利用者の希望や力を見極め、一人での外出を家族と検討するなど、リスクと安全確保のバランスを検討し支援を行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員を設置して不適切なケアについて検討し虐待につながってしまわぬよう理解を深め防止に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等の参加はできていないが、今後予定している。 利用者に成年後見人制度を利用されている方がおり、月に1回のペースで来訪されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に、お互いに誤解をうまないよう話し合いを重ねている。また、重要事項の説明も行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、ささいな事でも話し合えるような雰囲気づくりを心掛けている。日常生活の状況報告として毎月お便りを配布している。	家族には毎月の事業所便りと担当職員による個別の短信を添えて、利用者の近況を伝えています。家族からは気付いたことや意見、要望を出しやすいように声掛けを行っています。得られた意見や要望をノートに記載し、職員間で情報の共有を図っています。	面会時ノートなども活用し、家族からの意見や要望をいろいろな方法で集められるようにしています。会話の中から得られた貴重な意見も事業所の運営に反映しやすいよう、記録のルールを定め、職員が協力して実現できるよう、取組の継続が期待されます。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や連絡ノート、日常の会話等で意見や提案が出されている。都度反映されたり、管理者・主任・リーダー・計画作成担当者との会議で検討している。	職員から日常的に、運営に対する意見や要望の提案があり、それらを管理者と役職者による会議で検討し、運営に反映しています。また管理者による定期的な面談があり、職員は直接意見や要望を伝えることができます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も現場に出て、スタッフの様子、行われている支援を把握している。月に一回職員会議とは別に管理者、主任、職員との話し合いの場を設け環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加や定期的に内部研修会を行いケアの向上に努めている。また職員は定期的に自己チェックシートで自己評価をしてもらい、管理者と面談し目標に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	施設外での研修会の参加を通じて、同業者との交流の機会をつくり、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談や入居前訪問で本人の状況を把握するよう努めている。入居後においても職員間で情報を共有し合い、気持ちに寄り添いながら関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃から話しやすい雰囲気づくりに努め、入居前の段階から家族が感じている想いをくみとれるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームで出来ることや難しい事があるなかで、相談を受けた際に、本人・家族などに確認し、出来る限り柔軟な対応を行っていけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさのある生活をおくって頂けるように日々の生活のなかで人生の先輩としてさまざまなことを教えてもらい、暮らしを共にする者同士の関係になれるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時の会話だけではなく、生活状況報告書など書面での伝達や希望に合わせ、小まめな電話連絡をするなど、本人同様に大切な存在として捉えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅生活中からの馴染みの理美容室を利用。地域の友人・知人の訪問を日頃から大切に継続して支援するよう努めている。	家族や友人の来訪が多く、馴染みの関係が維持されています。馴染みの美容室の利用や葬儀への参列、電話や手紙の支援など、利用者の馴染みの関係が継続できるように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席やレクリエーション活動など利用者同士の関わりや性格を考慮したうえで、関わり合いや支え合えるような支援の配慮に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域であった際に近況報告などを伝え合ったりしている。また、ホームの行事ではお手伝いに来て下さる方もおり、関係性を断ち切らない取組みを行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から穏やかな雰囲気づくりを目指し、本人との会話ややりとりのなかで暮らしの希望や意向の把握に努めている。	利用者との会話の中から、また家族からも利用者の好きなもの、好きなことなどの情報を得て、思いや意向の把握に努めています。職員会議や記録を通して、職員間で情報を共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族との会話や基本情報などの書面を通じ、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気づきや変化を感じ取り、対応していけるよう記録や職員間でも話し合うことで情報を共有し合い現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でも意見交換を行ったうえでモニタリングやカンファレンスを実施し、また家族にも意見交換や確認のうえで、介護計画を作成している。	日々の生活記録が介護計画と連動するよう書式を工夫しています。利用者ごとの担当職員が生活記録をもとにモニタリングシートを作成し、職員会議で話し合っています。家族の意向も確認の上、3ヵ月ごとに介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の書き方や書式についても話し合い、よりスムーズな情報の共有ができるように取り組んでいる。職員間の周知のもと、話し合いや記録をベースに介護計画を見直し実践に取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	開設から在籍しているスタッフがほとんどということもあり、利用者・チーム間の関係性も良く既存にとられないサービス、今、その時を大切にできるサービスを提供しやすい環境のように感じている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外食やドライブ、散歩など本人の希望を聞き積極的に支援している。また、職員の気持ちの変化として勤務時間に捉われない外出の機会ももっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から利用されている病院に家族や職員で対応している。また状況に応じ、家族と本人の了承のもと往診可能な東町ファミリークリニックに転院して頂き対応している。	専門病院や以前からのかかりつけ医への受診は、家族や職員で支援しています。利用者の多くは協力医が主治医となり、週1回の往診があります。事業所の非常勤看護師とは看護師ノートや引継ぎの時間に情報を共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師との相談や状況報告のもと適切な受診が受けられるよう努めている。また、週に4回の勤務なため、看護師の状況把握もでき相談しやすい環境と感じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急遽の入院にも対応できるように、内服薬や既往歴など本人の状況をまとめた医療情報シートを作成している。またホームとしても出来る限りの柔軟な対応ができるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化や終末期ケアにむけた指針の説明を行い、本人・家族と話し合いを重ね、希望に寄り添ったケアに努めている。また終末期を迎える前には往診医に転院して頂き支援に努めている。	「重度化・看取り介護に係わる指針」を作成し、契約時に説明しています。重度化した場合は家族と話し合いを行い、改めて覚書を作成しています。家族、職員、医療職で方針を共有し、本人や家族の意向にそった支援ができるように努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議での話し合いや急変時などの対応マニュアルを作成、また普通救命救急の受講しており実践力を身に付ける取り組みを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年に2回火災避難訓練を消防署や地域の協力を得て取り組んでいる。また、全職員が避難訓練に参加できている。	消防の立ち合いのもと、年2回の火災避難訓練を実施しています。自然災害時における緊急避難先として、協力福祉施設を確保し、万一の避難に備えています。食料などの備蓄や発電機を購入するなど、準備を進めています。	火災だけでなく、地震、水害などの災害を想定した避難訓練、また避難訓練への地域住民の参加の働きかけを継続し、さらなる防災体制の強化に向けた取り組みを期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	暮らしを共にする者として、時には親しい声掛けをすることもありますが、人生の大先輩として利用者との向き合い方を研修会や会議、ときには現場などで行っている。	個人の消耗品の洗濯用洗剤等には名前をインシヤルで表記するなど、プライバシーに配慮しています。トイレや浴室などでの支援は、利用者の希望にそって、同性介助を行っています。人生の先輩として利用者の尊厳を傷つけないケアに努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の対話、やりとりのなかで本人の希望を汲み取り、実践していけるように努めている。自己決定の尊重の大事さを研修会や会議などを通じ、日々学んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	日々の暮らしのなかで、習慣化するのではなく、本人の言葉や表情、行動に寄り添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や衣類などの買い物の希望に合わせて取り組むことや職員から提案することもあり、身だしなみについて普段から配慮を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事も楽しみの一つと捉え、調理なども職員と行うことや基本的には利用者と職員と一緒に食事をして、準備や片づけも行っている。	利用者の要望や好き嫌いに配慮した献立を作成しています。利用者は職員と共に準備や片付けなどを行っています。月ごとに行う誕生会や、季節を感じられる流しソーメンや敷地内での焼肉などを企画し食事が楽しみになるよう工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は記録に書きとめている。また食事や水分の確保が難しい場合は、時間をおくことや代替えた食事を摂って頂くなど柔軟な対応に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯医者への往診をうけている。その際、口腔内のケアについてのアドバイスをもとに支援に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録や仕草、行動のなかから排泄のパターンの把握や必要に応じて羞恥の面に配慮した声掛けに努め、排泄の失敗が減るよう配慮に努めている。	利用者個々の排泄間隔を把握しています。把握した間隔だけでなく、その時々仕草や表情などから声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄を支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人と予防改善にむけた相談や飲食物の工夫や運動の取り組みをしていけるよう朝の申し送り時に話し合い実践している。また、看護師からのアドバイスも頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	日中帯の3時間程度の限られた時間のなかで希望に寄り添えるよう相談や配慮に努めている。	週2、3回を目途とし、午後中心に入浴しています。職員と会話しながらの入浴や一人でゆっくり入浴したいなど、利用者それぞれの希望に合わせて、入浴が楽しく寛ぐことのできる時間となるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境への配慮や夜間帯の様子、本人の表情、想いを大切に柔軟な対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容や効能、副作用が把握できるよう服薬ファイルを作成している。また医師や非常勤看護師からどのようなことが考えられるかを聞き、変化に気づけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活史の背景を活かした調理やレクリエーション活動、また環境面への配慮を心掛けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の会話のなかで、希望を取り入れ散歩や買い物、ドライブに出掛けることもあり、出来るだけ柔軟な対応ができるよう努めている。	日常的な散歩や買い物だけではなく、天候や利用者の要望、体調等を考慮した上で、外出しています。歩行が困難な利用者も車いすを利用し、外出できるように支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時の段階から利用者・家族との話し合いを重ねている。また生活状況のなかでの変更もあり、ご自身でお金を所持されている方や、そうではない方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望があり、相手が初めての方の場合は家族連絡をして確認をとったうえで支援させて頂くこともありますが、できるだけ柔軟な対応ができるよう努めている。また、利用者のなかには携帯電話を所持している方がいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季にあわせた装飾や混乱を招かないよう温かみのある色を使った案内表示を掲示するなど居心地の良く、住みやすい環境への配慮に努めている。	居間や居室に温度計、湿度計を設置し、利用者が快適に過ごせるように温湿度を調整しています。食卓の座席は利用者同士の関係を考慮し、落ち着いて過ごせるように配慮しています。広い浴室やトイレには必要な箇所に手すりを設け、利用者が安全に使用できるように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや居室だけではなく、窓から景色が見える廊下や共同スペースに椅子を配置し、その時の気持ちに配慮できるような居場所の工夫に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの居室には、その人らしさを感じる個性が表れ、本人が使い慣れたものを中心に用意して頂いている。また生活状況の変化に合わせて、相談や提案のもと職員と共に模様替えなども行っている。	居室の入り口に表札と利用者の写真を掲示し、利用者が自室と分かるよう工夫しています。利用者が使い慣れた物を持ち込むことで、居心地よく過ごせる空間となるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーであり、また歩行器を使うことで自由に歩くことができている。生活のなかでのつまずきが少しの工夫でできることに変わる支援ができるよう安全面に配慮し、取り組んでいる。		